



# 小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代  
1385-18  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子  
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziroyc Yacht Club

2023年5月号 VOL-299

2023.5.10 発行

今月の内容		ページ
連絡事項	(編集委員) .....	1
小笠原レース参戦記	(テイス4 児玉 萬平) .....	2~3
今後のイベント予定		
5月 KFR	: 5月21日(日) 初島レース (帆走指示書をご確認ください)	
総務委員会	: 5月22日(月) 20:00~ (Zoomによるweb会議)	

## 連絡事項

1. 5月8日から新型コロナの感染定去上の扱いが5類に引き下げられました。

小網代ヨットクラブでは、総務委員会でこの状況への対応について検討し、五十嵐会長より利用規則の更新版が出されました。ホームページの表紙右枠「小網代ヨットクラブについて」の欄上段に掲示しています。

・更新：COVID19 対応クラブハウス利用規則 (2023/5/1 版) を必ずお読みください。

### <新小網代スタイルとクラブハウス利用規則>

新小網代スタイルにもとづき利用規則が更新されていますので、新小網代スタイルをお守りください。

ゴミは今までと同様に持ち帰りをお願いいたします。メンバーの健康のためにご協力をお願いいたします。

\*この更新が画面に出ていない場合は、画面の再読み込み (リフレッシュ) をしてください。

2. クラブハウス修繕工事

●5月9日(火曜日) ~ 5月23日(火曜日) まで後半の作業が行なわれます。

屋外木部塗装 \*塗装表示がある場所での通行には、気をつけてお通りください。

3. 小笠原レース参戦の「テイス4」は、2位になりました。

4月23日(日) 11:00 小網代中をスタートし、ファーストホーム艇の「貴帆」が最速の25日の夜に、2着の「テイス4」は26日10:41にフィニッシュしました。所要時間は3日を19分切る速さでした。7艇の内、2艇はリタイア。海上はかなり荒れたとのこと。「テイス4」の小笠原レース参戦記を2~3ページに掲載しました。

4. クレージング委員会から「初夏のクレージングイベントのご案内」

●6月3日(土) 保田漁港への日帰りクレージング

「ばんや(新館)」昼食(懇親会) 懇親会費用: 3,000円/おひとり (昼食 + ドリンク)

<係船料 日帰りの場合 3,000円・停泊の場合 4,000円>

参加申し込みは下記にメールしてください。締切日: 5月19日(金) まで

[kyc\\_cruisingml@googlegroups.com](mailto:kyc_cruisingml@googlegroups.com) クレージング委員会 委員長 中井恭一

## 小笠原レース参戦記

テイス 4児玉萬平

我々テイス4は4月22日にスタートした小笠原レース2023に2回目の参戦を果たしました（私自身は4回目）のでその様子をご報告します。最初に、準備段階から三浦 OSC、小網代ヨットクラブの皆様にお世話になりました。スタート前夜も激励をいただき、またフェイスブック等でも応援をいただき深く御礼申し上げます。

コロナ前まではGW中に小笠原スタートで行われていた同レースですが、レースメンバーは唯一の移動手段である小笠原丸の席を確保しなければならないため、小笠原村にとって最大の繁忙期にレースクルーにGW中の顧客の席が奪われてしまうという問題があった。そのため、主催団体である、日本セーリング連盟（JSAF）と日本オーシャンセーラー協会（JOSA）では小笠原村と小笠原海運の事業と折り合いをつけるため三浦スタート、小笠原フィニッシュというコースを選択し、スタートをGW前の4月22日に行うことを決定した。今回、国内では初めて500マイルレースの国際基準であるOSR（外洋安全規程）をカテゴリ2に適用し、安全基準を厳しい基準に適用したことで、この基準に対応できる国内艇が少ない事やGW前に休暇が取れるクルーが少ない事もあり、最初に手を挙げた我々テイスでしたが、どれだけの艇がエントリーするのか、またレースが成立するのか不安なところがあった。結果は7艇のエントリーがあって俄然盛り上がり、当方の気分も高揚してきた。

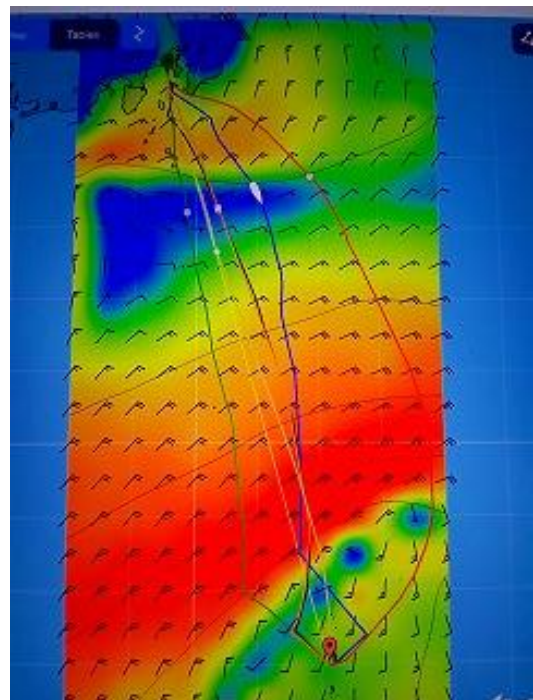
レースの準備は年末から開始、マストを抜いてチェックするところから始まった。2019年に横浜-パラオレースでカテゴリ2の装備を行っていたこともあり、特にこのレースのために準備することはなかったが、あえて言えば電動トイレの更新（今レースでは、これが問題となった）と微風対策のフライング・ジェノアの新調だったが今回は強風が続いたので不要だったと言える。

レースメンバーは艇長児玉、テイスメンバーからAワッチキャプテンに伊藤君、Bワッチキャプテンに高木君をアサインし、いつもレースや回航に協力してくれる協力メンバー（今レースのスポンサーでもあるセールオン保険）池田さん、衣笠の渡辺（康夫）さん、そして長さん、堤さんの計7名。私がフリーワッチ、あとの6名がA Bの二交代で臨んだ。

スタート1週間前ごろから複数の気象モデルを基にしたレーティング・ソフト（最適コースをシミュレーションできる）を使い、日に2回データを取得、セーリングプランを考えた。しかし、2日前になっても6つのモデルがバラバラの結果を導きだし大いに迷い続ける結果となった。それでも前日には漸くデータが収斂してきて、概ね強風のアビームからリーチング、フィニッシュ近くになって微風の向かい風、推定所要時間は3日と6時間と推定された。この風では、最後にエントリーした貴帆がフリーに強いので俄然有利になるが、最後の上りの微風が同艇の足を止めれば、我々の様な普通の船型の艇でも勝負になるかもしれないと考えた。私は2017年のファストネットに貴帆に乗って参加したので同艇のパフォーマンスは十分認識していた。

22日、スタート前に「ストームジブ」と「トライスル」を上げてチェックインを受けた。普段張ったことが無い荒天用セールを上げてエントリーするのはファストネットやシドニーホバートでは行っていることだが、改めて自艇で行うことで荒天への備えの意識が深まることを認識した。

11時、スタート。NEの風15kt、赤白浮標を回ってA3ジェネカーを上げる。ほぼ同程度の大きさのテイス（First40.7）、スターダスト（X41）、ゼロ（IMX40）、そして貴帆が並んで走り始める。別格の貴帆はともかく、この3艇が200マイル先の青ヶ島付近まで互いに見える位置で競い合うことが出来たのは、稀有な事でもあり興奮する体験でもあった。



私は、前日の酒が抜けていなかったこと、船泊まりの寒さで寝付けなかったせいか、すごぶる体調が悪く、大島を超えるころには盛大に吐きまくる羽目になってしまった。そこで艇長はフリーワッチという特権をフルに使わせてもらい、クルーには申し訳ないが、デッキに出ることもなく、艇内の計器とバースから見えるセールのシエーブをチェックしながらセールチェンジやコースの指示を出すことに専念した。結局フィニッシュするまで一度もオイルスキンを着ることが無いという、初めての体験をしてしまった。

2日目から風速は常に20ktを越え、MAXで39ktに上がった。アビームからリーチングではあったが、風速以上に海況は大いに荒れ、横からの大波が艇を叩き続ける状態が続き、ワッチクルーが数度にわたって大波に飛ばされた。池田さんはろっ骨を強打（フィニッシュ後の診断でひびが入っていた）し、渡辺さんは額を計器の角にぶつけて裂傷を負い、長さんは持病の腰痛が悪化…艇内もガスホースのジンバルの吊り金具が強烈なパンチングで破損、ガスホースの張力があつたおかげで落下せずに留まったが、ヒールが収まったフィニッシュ直前まで暖かい食事は取れなかった。交換したばかりのトイレの吸入口の逆流防止が効かず、ヒールやパンチングでトイレのボールから海水があふれ、ビルジが暴れ始めた。その後は元バルブを都度閉めることで対応したが、中の人間にとっては艇内の損傷対応に苦戦を強いられた。



そのころ僚艇艇まという、ガスパード (J122) は船内のクルーが飛ばされて顔面をぶつけて骨折しリタイヤ、スターダストもブームを折ってリタイヤ、両艇とも八丈島に避難した。ゼロはフィニッシュ後に聞くとエンジンが破損し動かなくなった、という。テティスも2ポイントリープしたメインセイルのリーチが破れ始めたが、何とかフィニッシュまで持ってくれた。

貴帆のフィニッシュタイムから12時間以内ならば優勝の可能性もあるかなと思いついたが、3日目の朝になると、予報通り風が落ち始め、前に回り始めた。艇速は8.9ktから4.5ktに半減、午前8時の段階で残航17マイル、優勝の夢は潰えた。それでも大いに荒れた海面から解放された喜びは大きく、青空が広がり始め、海に輝きが戻って来た小笠原二見港に入港する時は何とも言えない思いの中、着順2位で26日10時41分フィニッシュした。推定所要時間の3日には19分欠ける早さだった。

結果として7艇中5艇が完走、総合は貴帆が1位、テティス2位、ゼロ3位だった。



帰路は、もともと小笠原丸で帰る予定の2人に加えて、負傷の池田、長が降り、回航には藤村(ノブ)君と伊藤夫人、そして実行委員会の橋田さんが入って6名で5月1日の夕刻二見港を出港、八丈島経由で戻った。帰路も決して楽ではなかったが往路の様な大波を食らうことはなかった。八丈島からは吹きだした南風に乗って快走、5日午後1時に小網代に帰港した。

レースメンバー、回航メンバーに改めて感謝しつつ。。